



- ㊦ 「笑う門には 来る」(笑う家には福が来る)
 *あそこの家の人みな明るいから、自然と人が集まってくる。
 「笑顔に当る拳(こぶし)はない」笑顔の人には怒りがぶっつけられない。
 *あの人の前だと、いつも不機嫌そうな人でも表情が和(やわ)らぐね。
- ㊦ 「 ある鷹(たか)は爪(つめ)を隠(かく)す。」
 (鼠取る猫は爪をかくす。)
 *優れている人は、普段その才能を人にひけらかしたりしない。

「声なくして人を呼ぶ」人徳があれば、自然と人が集まってくる。(周りが放っておかない。)

日本の自然を歌う



四季の歌

作詞・作曲 荒木とよひさ

The Song of the Seasons

春を愛する人は
心清き人
すみれの花のような
僕の友だち



秋を愛する人は
心深き人
愛を語るハイネのような
僕の恋人



夏を愛する人は
心強き人
岩をくだく波のような
僕の父親



冬を愛する人は
心広き人
根雪をとかす大地のような
僕の母親



日本の歌：日本にはたくさん美しいメロディを持った歌があります。「さくら、さくら」は世界で最も知られている代表的な唄です。「四季の歌」は日本の季節の移ろいと季節感を巧みに表現しています。夫々の節に人の愛を深く読み込んでいます。美しく、しかも決して難しくありませんから、是非あなたの愛唱歌としてください。



俳句 (はいく) 日本が産んだ世界最短の定型詩、五七五律です。

5 7 5 音律と 7 7 音律が交互に続く連歌はかなり以前から使われていましたが、完全に独立して俳句としたのは正岡子規によるものであり、まだ百年少々しか経っていませんが、多くの日本人が愛して止まない文芸の世界です。

《季語》 俳句の中に生命を取り込むことが大変重要であり、生命は現れたかたちとしては季節と共にあり、花は春咲き、ホトトギスは夏鳴き、月は秋最も美しく雪は冬降り積もる。季語を季節毎に分類して例句を集めたものが歳時記で、季節語の集大成であり、俳句を作る上での共有の手引書でもあります。



- 《春》 故郷(ふるさと)や どちらを見ても 山笑う 子規
- 《夏》 静かさや 岩にしみ入る 蝉(せみ)の声 芭蕉
- 《秋》 柿食えば 鐘が鳴るなり 法隆寺 子規
- 《冬》 初富士(はつふじ)にかくすべき身もなかりけり 汀女



(新年はじめて見る富士山を初富士という。全身雪をまとい、晴れた空の中に全景を見せる富士。その公明正大なる雄姿の前には、隠すべき身もない。すべてをさらけ出して、前進するのみ…の意。)



**面白メモ→ 松・竹・梅 食堂で見る料理の品 (定食や寿司等) についている。料理の種類分け。